

平成27年度 指定管理者年度総合評価表
(平成27年4月～平成28年3月実施分)

作成日	平成28年 6月 1日
-----	-------------

■指定管理者概要

施設名	八戸市児童科学館・八戸市視聴覚ライブラリー	
所在地	八戸市類家四丁目3-1	
施設概要	《設置目的》 子どもたちの科学する心を育てる児童科学館と、学校教育・生涯学習のための視聴覚教材の制作・貸出し・研修を行う視聴覚センターの機能をもつ。三八視聴覚教育協議会の視聴覚ライブラリー業務も行っている。 《建物構造》 鉄筋コンクリート造 2階建 PH1階 プラネタリウム・視聴覚室・スタジオ・天体観測室	
指定管理者	名称	三八五ふれあいネット（三八五バス株式会社・三八五交通株式会社）
	代表者	三八五バス株式会社 代表取締役 新井山 長吉 三八五交通株式会社 代表取締役 小笠原 修
	所在地	八戸市江陽2-18-37
指定期間	平成24年4月1日 ～ 平成29年3月31日	
指定管理者の業務	施設使用許可及び視聴覚教材教具貸出事務 観覧料徴収事務 施設の運営に関する事務	
市所管課 (問合せ先)	八戸市教育委員会（八戸市総合教育センター）	
	電話	0178-46-0521（直通）
	E-mail	edcenter@city.hachinohe.aomori.jp

■指定管理者による自己評価

<p>評 価</p>	<p>1 指定管理者として2期目の4年目。今年度も施設の設置目的を理解し、各種法令、条例、規則等の遵守を徹底し、教育関係機関と連携した「地域教育」の推進、保育園・幼稚園・学校・児童館・公民館等の教育活動の支援に努めてきた。また、かがくかん祭を実施し、体験を通し、利用者へ「理科・科学の好きな子どもの育成」と「豊かな人間性の育成」を基本とした事業運営を心掛けた。また、職員を対象に、知識・技能の向上を目的に各種研修を実施し、総合的な人間力の向上を目指した。さらに、外部講師を招き、接客接遇についての研修を実施した。その結果、入館者数は前年度と比べて36%増加した。</p> <p>2 視聴覚ライブラリーの利便性の向上を目的に平成26年度より「移動ライブラリー」を実施。三八管内市町村教育委員会、小・中学校を中心に、当館所有の視聴覚教材等を紹介させていただくなど、周知活動に努めた。その結果、教材貸し出しが前年度を上回る件数となった。(3%増加)</p> <p>3 緊急時動員体制と情報連絡体制を整えた「災害時行動マニュアル」、および子どもたちや職員の安全確保の方策についての「災害対応マニュアル」を作成し、万が一の災害に対して全職員が共通理解している。非常時に機能する訓練などを実施しておく必要があるため、年3回関係機関と連携し地震、火災、不審者を想定し訓練を実施した。また、様々な年代の方が来館されることから、万が一に備え「普通救命講習」を開催し、AEDの正しい使い方や心肺蘇生法の訓練を行った。さらに、毎日敷地内外を巡回し、異常の有無を確認している。</p> <p>4 職員による自己評価、有識者による外部評価を実施し、改善点を見直し、よりよい館運営を目指した取組を進めている。</p> <p>・以上指定管理者としての7年目の総評として、各種法令・各条例等を遵守した管理運営を適切に実施した。その結果、職員各自が参画意識を持ち、事業企画等に創意工夫を活かした内容になった。</p>
<p>今後の目標</p>	<p>1 職員の知識・技能の向上を図り、総合的な人間力の向上を目指す。</p> <p>2 プラネタリウム充実・多様化を目的に、「生解説」を増やすよう取り組むとともに、地域の方々と連携した特別投影などを企画し、利便性の向上を目指す。</p> <p>3 各教育機関・関係団体の声を最大限に生かし、「施設の新しい魅力づくり」を目指す。</p> <p>4 災害等の緊急事態に素早く対応できるように、職員の危機管理能力の向上を目指す。</p>

■市（所管課）の総合評価

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者の努力によって、様々な事業を展開し入館者数が大幅に増加した。 ・プラネタリウム観覧について、質を高めようと講師を招いたり、研修に出かけたりとアナウンスの勉強を積極的に行っている点が評価できる。 ・自主事業では、施設設置目的に沿った講座等を開いたり、職員のアイデアを採用しての事業・取組を展開したりして、利用者増加のための努力を行っている。 ・三八五ふれあいネットが継続して指定管理者となり、第二期の四年目も順調に運営された。今後も、幼児・児童・生徒の「豊かな人間性の育成」と市民の生涯学習の場として、事業を充実させてほしい。
<p>指摘事項</p>	<p>特になし。</p>

[評価：◎非常に良い、○良い、△やや悪い、×悪い、—評価不能]

■管理運営状況に係る個別評価

1 管理状況		
指標	評価	評価に対する説明
開館時間、休館日の運用	◎	開館時刻を午前8時30分に早め、閉館時刻を午後5時まで延長するなど、開館時間を延長したり休館日を減らしたりするなどして、市民サービスの向上に努めていた。
法令の遵守	○	法令、条例や運営規則、施行規則を確認しながら業務を遂行していた。
適正な人員配置	◎	業務基準書に示された水準以上の管理運営をするために必要な人員及び資格者を配置していた。
従事者の労働環境確保	○	労働関係法令が遵守されていた。
障がい者の雇用状況 ※募集時に提案していた場合(選定時加点)	○	提案内容のとおり雇用していた。
協働のまちづくりへの協力 ※募集時に提案していた場合(選定時加点)	◎	提案内容を上回る十分な地域貢献活動が行われていた。
従事者の教育・研修	◎	講師を招いて接客接遇の研修会を行うなど、来館者を心地よく迎える研修が行われていた。
緊急事態への対応	◎	緊急事態の対応マニュアルを作成し、年3回の避難訓練、普通救命講習を実施した。
文書の管理保存	○	文書取扱規程が整備され、作成、受領した文書は適切に管理保存されていた。
報告書等の提出	○	事業計画、月例報告、事業報告、その他報告等が適切に提出されていた。
利用料金の取扱い ※承認料金制の場合	○	観覧料等の徴収事務が適切に行われていた。
利用料金の減免	○	市内在住65才以上の観覧料を半額にするなど利用料金の減免を適切に実施し、利用者の効果的な拡大に努めている。
口座管理、経理の区分	○	指定管理者専用口座で管理し、経理区分も明確にしていた。
通帳、印鑑の管理	○	通帳と印鑑の管理が適切であった。 ・通帳、印鑑それぞれ別の社員が管理していた。
管理物件に対する損害賠償、第三者への賠償	—	事例なし。
指定管理開始前における準備	○	21年度から23年度、24年度から28年度と指定管理者の指定を受けていたので、対応なし。
管理終了後における引継ぎ	○	21年度から23年度、24年度から28年度と指定管理者の指定を受けていたので、引継ぎなし。
重要事項の変更の届出	○	書類の届出が適切に行われた。 ・教育委員会承認事項に関わる届出は適切に行われた。
施設の使用許可及び条件	○	施設使用許可が施設設置条例に基づき適切に行われていた。(使用制限、条件の変更、入場拒否はなかった。)

施設、設備の保守管理	○	施設、設備の保守管理（点検や修繕等）が適切に行われていた。
備品の管理	○	備品の管理（点検や修繕等）が適切に行われていた。
清掃業務、警備業務、 その他必要な管理業務	○	隣接する福祉公民館の清掃・警備業務担当者は当館の管理者と同一であるので、駐車場管理なども含めて適切に行われていた。

2 運営状況

指標	評価	評価に対する説明					
開館日数	◎	開館日数が前年度を上回った。 H26 315日 H27 318日					
入館者数	◎	入館者数が前年度を大きく上回った。 H26 78,628人 H27 98,026人（前年度比 136.1%）					
プラネタリウム 観覧者数	◎	観覧者数が前年度を大きく上回った。 H26 13,076人 H27 14,538人（前年度比 111.2%）					
施設利用状況	◎		H26		H27		自主事業の成果などで、 入館者数・利用者数が前 年度実績を大きく上回っ た（入館者24%増）。
		スタジオ	3件	6人	6件	9人	
		視聴覚室	219件	4,688人	219件	5,329人	
		実習室	40件	1,209人	78件	1,853人	
		講義室	88件	2,172人	80件	4,083人	
		天体観測室	27件	1,310人	26件	639人	
合計	377件	9,385人	409件	11,193人			
プラネタリウム 利用状況	◎	個人観覧者数	6,899人		7,809人		市内在住 65才以上の観 覧料を半額としたことも あり、プラネタリウム利 用者数が前年度実績を大 きく上回った。シルバー ウィーク特別無料投影な どの番組に、多くの観覧 者があった。 （観覧者数11%増）
		団体観覧者 数	130件 4,690人		135件 4,511人		
			2件 43人		1件 29人		
		減免観覧者数	131件 1,174人		191件 2,189人		
合計		13,076人		14,538人			
視聴覚教材 貸出し状況	○	16ミリ映画	71本		56本		教材貸出数が前年度実績 を上回った。三戸郡への 無料宅配、八戸市内学 校・公民館へメール便の 活用、移動ライブラリー の実施等が好評を博し た。（視聴覚教材貸出し 件数3%増）
		スライド	-		-		
		ビデオ教材	121本		146本		
		LD	-		-		
		パソコンソフト	-		1本		
		DVD	715本		774本		

自主事業及び委託事業の実施状況	◎	委託事業では、わくわくサイエンスや青少年のための科学の祭典への協力、移動天文教室、少年少女発明クラブ、天文クラブ等の11の事業を実施した。各教育機関との連携を密にした一方で、「八戸天文同好会」・「科学であそび隊」・「星好きんず」等、地域のボランティア団体や、八戸工業大学の学生、八戸市内の高校生、その他の有識者や市民と、連携を深めて事業を実施した。		
		5つの研修会・講座を企画、実施した。小、中学校アナウンス・カメラワーク講習会では、プロのアナウンサーから発声の基本、校内放送の仕方、カメラマンから、カメラの正しい使い方、撮り方を指導していただいた。また、映像利用学習会は、市教委の重点施策である「子育て」・「生涯学習」を内容にした講演会で、9回実施し、282人の参加者があった。		
		科学館キッズ工房	25,718人	左記の自主事業を始め30の自主事業を行い、46,225名の参加があった。特に科学館キッズ工房は、多くのリピーターを獲得している。その他には、「皆既月食観測会」等、天文現象にまつわる事業も展開した。また、八戸市環境・健康フェスタや、八食わくわくフェスタ等、館外活動にも精力的に取り組み、科学工作に触れる機会を増やした。これらの事業を通じて、市民の科学する心を育んだ。
		皆既月食観測会	130人	
		交通パノラマ操作体験	317人	
		八食わくわくフェスタ出展	1,181人	
		かがくかん祭	3,579人	
		八戸市環境・健康フェスタ	1,000人	
神話おばけやしき	858人			
その他の取組	◎	図書館 「お楽しみ映画会」	八戸市立図書館2階において、一般市民を対象とした上映会および講演会を実施した。上映会では、当館保有映像教材を活用し、講演会では、世界遺産をテーマに現地で撮影した映像を講師から紹介した。全8回実施。257人の観覧者があった。	
		プラネタリウム シルバーウィーク 特別無料投影	シルバーウィーク期間中に日替わりで特別プラネタリウムを無料投影。子ども向けから、一般向けまで様々な番組を用意し、これまでプラネタリウムを見る機会の少なかった世代の観覧者数も多かった。合計で715名が観覧した。	
		安田コレクション おもちゃ展	八戸市在住のおもちゃコレクター安田勝寿氏所有のおもちゃの展示会。様々な年代のおもちゃを展示した。おもちゃをきっかけに三世代が交流するきっかけになり、419人が鑑賞した。	
		月と太陽の秘密 (小学校との連携事業)	小学校6学年の単元「月と太陽」は、実際の観測を交えながら学ぶ必要があるため、難しい教材と考える教諭が多い。そこで、児童科学館職員が、プラネタリウムの活用、望遠鏡キットの制作などを交えながら、授業を行った。平成27年度は、八戸市内小学校1校、三戸郡小学校2校で実施。好評を得られた。	
		出前事業の充実 (幼、保、小、公民館、児童館との連携事業)	小学校、公民館、児童館等に出前事業を実施した。科学館キッズ工房の「かさぶくろロケット」「スーパーボール」等を、工作するだけでなく、疑問を持たせ解決に導くという順序を経て行うことで児童の科学する心を育むことができた。	
		他施設との連携事業	八戸市立南郷図書館と連携し、星空観望会を実施し、評価を得られた。また、八戸市水産科学館、三沢航空科学館、盛岡市こども科学館と交流し、職員研修会を実施した。以上の取り組みにより、他施設との連携を深めることができた。	

	館内外の安全管理	館内外の安全管理のため、朝、夕に敷地内外の巡回、館内点検を定期的を実施。施設の安全管理と、異常箇所の早期発見、対応に努めた。
	職員のスキル向上 研修の実施	<ol style="list-style-type: none"> 1 知識・技能の向上を目的に各種研修を年間計画で組み、実施した。 2 プラネタリウムの操作技術向上と、全国のプラネタリウム関係者との情報交換を目的に「全国プラネタリウム研修会」に参加した。 3 実験教室の開催と、参加者同士の情報交換を目的に、科学技術館で開催された「エネルギー・放射線の不思議」研修会に参加した。 4 AED の使い方、心肺蘇生法、けが、やけど等に対する対処法を学んだ。 <p>いずれの研修も、実りある成果をあげ、現行の業務に役立っている。</p>

3 収支状況

指標	評価	評価に対する説明																																																									
指定管理業務の収支状況	○	<p>適切な収支で事業が円滑に実施されていた。</p> <p style="text-align: right;">(単位：円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>収支計画</th> <th>収支実績</th> <th>前年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">収入①</td> <td>利用料金</td> <td style="text-align: right;">821,000</td> <td style="text-align: right;">729,610</td> <td style="text-align: right;">820,110</td> </tr> <tr> <td>指定管理料</td> <td style="text-align: right;">35,304,000</td> <td style="text-align: right;">35,304,000</td> <td style="text-align: right;">35,727,000</td> </tr> <tr> <td>修繕料繰越金</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">8,232</td> <td style="text-align: right;">3,876</td> </tr> <tr> <td>自主事業繰入金</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">36,255</td> <td style="text-align: right;">45,024</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">36,125,000</td> <td style="text-align: right;">36,078,097</td> <td style="text-align: right;">36,596,010</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">支出②</td> <td>人件費</td> <td style="text-align: right;">24,145,000</td> <td style="text-align: right;">23,916,018</td> <td style="text-align: right;">24,026,658</td> </tr> <tr> <td>維持管理経費</td> <td style="text-align: right;">7,163,000</td> <td style="text-align: right;">7,049,343</td> <td style="text-align: right;">7,406,887</td> </tr> <tr> <td>事業費・一般事務費</td> <td style="text-align: right;">3,367,000</td> <td style="text-align: right;">3,211,508</td> <td style="text-align: right;">3,534,787</td> </tr> <tr> <td>消費税</td> <td style="text-align: right;">1,450,000</td> <td style="text-align: right;">1,890,321</td> <td style="text-align: right;">1,435,246</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">36,125,000</td> <td style="text-align: right;">36,067,190</td> <td style="text-align: right;">36,403,578</td> </tr> <tr> <td></td> <td>次年度修繕料繰越金③</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">43,938</td> <td style="text-align: right;">8,232</td> </tr> <tr> <td></td> <td>収入－支出(①－②－③)</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">▲33,031</td> <td style="text-align: right;">184,200</td> </tr> </tbody> </table> <p>収支は赤字であったが、最小限に抑えた。</p>		項目	収支計画	収支実績	前年度実績	収入①	利用料金	821,000	729,610	820,110	指定管理料	35,304,000	35,304,000	35,727,000	修繕料繰越金	0	8,232	3,876	自主事業繰入金	0	36,255	45,024	計	36,125,000	36,078,097	36,596,010	支出②	人件費	24,145,000	23,916,018	24,026,658	維持管理経費	7,163,000	7,049,343	7,406,887	事業費・一般事務費	3,367,000	3,211,508	3,534,787	消費税	1,450,000	1,890,321	1,435,246	計	36,125,000	36,067,190	36,403,578		次年度修繕料繰越金③	0	43,938	8,232		収入－支出(①－②－③)	0	▲33,031	184,200
	項目	収支計画	収支実績	前年度実績																																																							
収入①	利用料金	821,000	729,610	820,110																																																							
	指定管理料	35,304,000	35,304,000	35,727,000																																																							
	修繕料繰越金	0	8,232	3,876																																																							
	自主事業繰入金	0	36,255	45,024																																																							
	計	36,125,000	36,078,097	36,596,010																																																							
支出②	人件費	24,145,000	23,916,018	24,026,658																																																							
	維持管理経費	7,163,000	7,049,343	7,406,887																																																							
	事業費・一般事務費	3,367,000	3,211,508	3,534,787																																																							
	消費税	1,450,000	1,890,321	1,435,246																																																							
	計	36,125,000	36,067,190	36,403,578																																																							
	次年度修繕料繰越金③	0	43,938	8,232																																																							
	収入－支出(①－②－③)	0	▲33,031	184,200																																																							
自主事業の収支状況	○	<p>適切な収支で事業が円滑に実施されていた。</p> <p>総収入 2,192,910 円 (前年度実績 1,745,600 円) 総支出 2,156,685 円 (前年度実績 1,692,221 円) 収 支 36,255 円</p>																																																									

4 運営に係る体制整備状況等の状況

指標	評価	評価に対する説明
利用者満足度の把握	○	利用者満足度調査及びその結果を活かす仕組みができていた。 ・利用者アンケートの月毎の集計結果を館内に掲示していた。
施設概要(利用方法)の周知	○	施設概要や利用方法等をマスメディアを使った広報やホームページ、施設だより等で積極的に周知していた。 ・市内小中学校および幼稚園・保育園等に「館だより」で科学の祭典の開催や館内イベント情報を伝えていた。
苦情・要望等の受付体制	○	苦情・要望等の受付体制を明示し、周知していた。

苦情・要望等への対応	○	苦情・要望等に対し、適切に対応していた。（要望：21件） ・ぬり絵コーナーが暗いとの指摘に対し、二股ソケットをつけて手元を明るくするなど誠実に対応していた。
個人情報の保護	○	個人情報保護の規程を整備され、遵守されていた。（運用実績なし）
情報公開	○	情報公開の規程が整備され、遵守されていた。（運用実績なし）
秘密保持義務	○	秘密保持義務が守られ、適切に対応されていた。
環境への配慮	○	環境に配慮した物品購入、省エネルギーへの取組、リサイクルの推進等が適切に行われていた。

■他の事業評価実施状況

1 セルフモニタリング	
自主点検状況	<p style="text-align: center;">実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有識者による外部評価を実施し、改善点を見直しよりよい館運営を目指していた。 ・利用者アンケート結果に関して、問題点の克服に向けた取り組みを検討した。

2 定期モニタリング	
定期報告状況	<p style="text-align: center;">実施状況</p> <p>月例報告書などを元に、運営・収支状況などのモニタリングを行った。遅滞なく提出され、内容も適切であった。</p>

3 随時モニタリング				
実地調査状況	実施回数	実施日	実施者	実施内容
	5回	4月11日	所長・GL・担当	前年度の業務報告を受けた後、今年度の館の運営に関わる見通しや今後の予定についてを中心に視察した。
		6月10日	GL・担当	館の運営状況の把握・確認とともに、来館した市民の要望・苦情に対し適切な改善策を講じていたかについて聞き取りを行った。
		9月16日	GL・担当	館の運営状況の把握・確認とともに、施設・設備の修繕、事業等次年度の予算請求等に関わる要望の確認を中心に視察した。
		11月18日	GL・担当	自主事業及び委託事業、その他の取り組みについて、館の運営状況や利用状況の把握・確認を中心に視察した。
		2月19日	所長・GL・担当	個人情報の保護や情報公開等について意見交換を行うとともに、今年度の事業の振り返りと春休みの企画を含めた次年度の計画・企画について視察した。
実施結果				
<ul style="list-style-type: none"> ・予定していた事業や内容について適正な管理運営を行っていた。 ・市民からの要望・苦情に対し真摯に受け止め、その改善に努めていた。 ・適切に修繕を行い、業務を円滑に行うことができた。 ・キッズ工房等では入館者を増やすための改善とともに、体験活動の充実を図るなど質の改善にも取り組んでいた。 ・市民団体や工業大学、高等専門学校など他の機関との連携を生かしながら、自主事業の成熟をはかるとともに、人的交流が盛んになされていた。 				